

平成 27 年度 わくわく生き物講座 研修報告

◆ 飼育・栽培活動の意義について（理セHP教員研修から H27 わくわく生き物講座資料を参照）



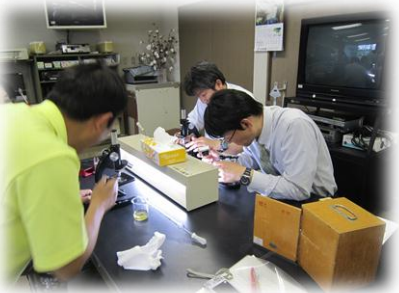
- ・栽培、飼育活動を通して生物を愛護しようとする態度、生命を尊重しようとする態度を育てる。
- ・状況に入っていく学びの中で、関係付けから意味づけの過程を大事にしていく。
- ・栽培、飼育活動を積極的に行い、実感のある学習、感動のある学習を展開する。
- ・例えば栽培する場所を子どもに選択させるなど、子どもにまかせる自由度を少しあげるだけで、子どもの学びは変わってくる。

◆ 飼育・栽培活動について（理セHP教員研修から H27 わくわく生き物講座資料を参照）



- ・B領域「生命・地球」の学習の系統性について
- ・栽培のポイントについて
- ・飼育ポイントについて
- ・チョウをよぶためのポイントについて
- ・オクラの種の配布

◆ デジカメと顕微鏡を使った演習（理セHP教員研修から H27 わくわく生き物講座資料を参照）



- ・モンシロチョウの卵、メダカの卵、水中のプランクトンを解剖顕微鏡や光学顕微鏡を通してデジカメで撮影した。
- ・メダカの卵の配布

◆ ゴーヤの苗の配布やモンシロチョウの卵の採集



- ・ゴーヤの苗の配布
- ・理セの畑のキャベツやブロッコリーからモンシロチョウの卵の採集
※学習の時期に合わせていつでも採集にきていただいてもよいことを確認した。
- ・ルー（ミカン科のハーブ）についてのアゲハチョウの卵と幼虫の観察

◆ 参加された先生方のアンケートから（抜粋）

- ・ 教師が準備することがすべてではなく、子どもに考えさせて栽培活動をするという発想がとても参考になりました。また、一方で教師の準備一つで理科はぐっと子どもの心をつかみ楽しく学ばせることのできる教科だと感じました。
- ・ 実際に見て触って、とても充実していた。子ども達にも是非見せて、体験させてあげたい。